

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	2 / 1956 / 29
タイトル	青森県理科教育研究会に出席して
著者名	三上昭洋

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森県理科教育研究会

に出席して

— 生物部門 —

我々にとっては1年を通じて最後の発表会である青森県理科教育研究会が去る10月13日、青森工業高校で行われた。

我々はいずれも2～3年の研究年月を経て得られた三つの研究をもって、これに臨んだのである。

まず会を開くにあたり、「今年は前年に比して数においては、少し劣るが質において勝っていることを期待する」、とのあいさつがあり、さっそく発表に入った。研究数は全部で21で中々弘前高校が目立って多かった。本校の研究の中、室谷君の「ゴマシジミの生態」は、ごく最近までわからなかったものなので目立って注目され、審査員側からもきびしい質問があった。内容としては見本に對するものが多く動物が少なかった。

その頃は後に「最も充実していた」とのオホメの言葉をいただいただけあって、我々では、とても優劣の差はつけられないのが多かった。

発表の態度では室谷君が興奮のあまり(?)、図をさす手が大きく振動していたのが氣にかかった。このようにして昼すぎまでかかった熱心な発表の結果、本校の「ゴマシジミの生態」が中1位を獲得、続いて弘前「潮鰯のさぐるの実験」、3位が、野宮の「イボバッタの研究」であった。

1位のは長年の大人にも劣らぬ研究態度と苦心が買われたものであり、2位は取柄がよく計画的に研究を進めたこと、3位のは1つの結論を得るためにあらゆる面から、あらゆる方法で調べたのが良かったのだろうと思う。

とにかく、この発表会より我々、少なくとも筆者自身はより多くの生物教養を高め、研究態度等学ぶことができ、試験前の日曜ではあったが有意義な日曜であった。

(三上 記)